

お茶の水女子大学ジェンダード・イノベーション研究所訪問のご報告

日時：2022年10月17日（月）16：00～17：00

本学会からの訪問者：

秋下 雅弘理事長、天野 恵子理事、片井 みゆき副理事長

お茶の水女子大学ジェンダード・イノベーション研究所でご対応下さいました方々：

石井 クンツ 昌子先生： 研究所長／理事・副学長

加藤 美砂子先生： 副研究所長／理事・副学長

太田 裕治先生： 副研究所長／副学長

斎藤 悦子先生： 副研究所長・教授

佐々木 成江先生： 社会発信部門長・特任教授

吉原 公美様： リサーチ・アドミニストレーター

2022年4月からお茶の水女子大学にジェンダード・イノベーション研究所(IGI)が開設されました。<https://www.cf.ocha.ac.jp/igi/>

8月にその新聞記事を読んだ天野恵子理事から、秋下理事長・片井副理事長に「是非、同研究所を訪問させて頂きましよう」とのご提案を頂き、双方の都合がついた10/17に念願の初会合が実現しました。社会学、生物学、工学、医学等の様々な専門分野から、ジェンダーの視点を通して、大変有意義な意見交換を行うことができ、瞬く間に時間が過ぎました。

今回の会合で、お茶の水女子大学ジェンダード・イノベーション研究所と日本性差医学・医療学会は、故 原ひろ子お茶の水女子大学名誉教授(文化人類学、ジェンダー研究)を通して共通のルーツを持つことが分かりました。当学会の前身である性差医療・医学研究会は、天野 恵子 千葉県衛生研究所所長(当時)、堂本 暁子千葉県知事(当時)、故 原ひろ子先生の3人が中心となって立ち上げたものだったのです。初めてお会いした分野も異なるメンバーが、あっという間に打ち解けて、これからの相互連携や研究連携へと話が弾んだのは、志を同じくすることと共に、ジェンダー研究に情熱を懸け偉大な業績を残された原ひろ子先生の薫陶を直接あるいは間接的に受けた仲間であるために他ならないと思いました。学問にかける情熱や業績は、こうして世代や分野を超えて波及し、受け継がれていくものであることを実感した次第です。

ジェンダード・イノベーションは今や世界的なムーブメントで、国内でもヘルスケアやウェルネス領域での関心も非常に高まっています。体格や身体の性差、加齢に伴う変化、文化的・社会的背景など、性差の視点を考慮した研究や技術開発を行おうとするものが、ジェンダード・イノベーションです。これらは、まさに日本性差医学・医療学会がこの20年余りの間、医学・医療の世界において研究、啓発と実践を続けてきた成果といえるもので

す。今では、男女共通の臓器に由来する疾患（例えば、心臓や脳など）にも性差があることは広く知られるようになりましたが、20年以上前に性差医学・医療が提唱された当初はそうではありませんでした。

現在、ジェンダード・イノベーションの機運が高まり、こうした性差の視点が、医学・医療、社会学等をはじめとする学問の分野だけでなく、さまざまな領域での発明や開発へと広がり導入されていくことを歓迎すると共に、学問の世界からも学際的な視点で連携し、社会啓発に共に努めて参りましょうと意気投合した次第です。当学会次期学術集会 <https://www.16jagsm.jp> で予定しているジェンダード・イノベーションのシンポジウムでも、石井クンツ昌子 IGI 所長にご講演を頂けることになりました。

今後の相互連携により、性差医学・医療およびジェンダード・イノベーションがさらなる発展を遂げる明るい未来を確信しつつ、帰途につきました。

(片井みゆき 記)



有意義な会合を終え、笑顔で記念撮影。

左から、佐々木 成江先生(IGI 社会発信部門長)、天野 恵子理事、石井 クンツ 昌子先生(IGI 所長)、秋下 雅弘理事長、片井 みゆき副理事長、加藤 美砂子先生(IGI 副所長)、斎藤 悦子先生(IGI 副所長)、太田 裕治先生(IGI 副所長)